

三教授、會計には白壁傑次郎・池田一幸の二教授及び補助辻内一書記となつて居り、編輯及び書記は、創立當初のまゝである。

各地の支 各地の同窓會支部も、内地は固より、鮮滿支那の大都市に設けられて、會員相互の親睦を圖ると共に、母校との連絡も密接となり、本部に於ては、日夕銳意名簿の整備を加へつゝ、年々之を印行し、會報も、時に特輯號まで編纂して會員諸氏に頒布し、以て本會設立の旨趣に添ふやう最善を盡してゐたが、昭和十年十月を以て、開校五十年記念會の成立を見るに至つたのである。

## 二、開校五十年記念會

記念會の  
目的と行  
事並に事  
業

第五高等學校開校五十年記念會の目的は、趣意書にもある如く、母校育英五十年の燦たる歴史を回顧し、感謝し、禮讚すると共に、その光榮ある歴史と、力強き傳統とを、益々宣揚進展せしめんが爲に外ならぬ。人或はその規模の小にして、その宣傳の消極的なりしことを難するかも知れない。さりながら、その計畫には、些の支障も生ぜず遂行せられ、記念式の際に於ける勤績者の表彰も、記念館の獻納も、同日午後の慰靈祭も、同夜の同窓會全國大會も、十一日午後の記念大講演會も、悉く會員の期待を裏切らなかつたことは、何人と雖も認めたと、信ずる。若し夫れ本書の刊行に至りては、記念館建設と共に、二大事業の一つとして、聊かながら母校五十年の面影を傳へ得るやうになつたのであるが、是れ偏に同窓會員各位の理會と援助との賜であることは云ふまでもない。

而して記念會については、昭和十二年十二月二十五日刊行の會報に、十時會長の挨拶は固より、細大となく報

告されてゐるので、茲には贅言を要しないと思ふが、記念會の成立計畫遂行に關しては、十時會長の細心なる配慮と、校内理事の熱心なる努力と、特別委員の熱烈なる援助とが、一般會員中より依頼せる千數百名の發起人諸氏の理會と賛同となり、延いてはその他の會員諸氏の贊襄醜金となつて現れた結果に外ならないのである。而して本書の筆を闇くに當りて、成立の趣意並に企畫の内容とを記して置きたいと思ふ。

## 發起人依頼狀

發起人依  
頼狀

拜啓 時下秋冷の候高堂益々御清祥の段奉大賀候さて來る昭和十二年が母校創立第五十年に相當致すことは夙に御承知の事と奉存候母校に於ては同年十月十日の創立記念日を卜して盛大なる式典を舉行致すことに相成居候御存じの通り吾が同窓會は母校の歴史に比して成立の日尙淺く従つて諸般の施設に於て遺憾の點多々有之候へども御蔭を以て年と共に整頓に赴き居候間追々と各位の御期待に背かざるまでに相成申すべきやう祈念罷在候就ては吾が同窓會に於ても一には以て龍南往年の生活を偲び一には以て後進誘掖の一端にも資する爲に此の際特に何等かの記念事業を相企て度く已に昨年の本部總會に於て満場一致の賛同を得候間不取敢數名の企畫委員を委囑致し銳意熟議の結果大體左記の如き成案出來今夏當地在住の特別委員會に附議して其の承認を得此程漸く實動の運びに相成申候公私御多端の際甚だ御迷惑のこと、奉存候へども一同の微衷を御賢察の上何卒枉げて發起人の一員たることを御承諾被下度御願申上候然るに諸事輻湊に取紛れ御依頼狀も存じがけなく遅延致し申譯も無御座候へども來る十月十日の記念日前には是非とも一般に趣意書の發送を完了致度候間甚だ勝手ながら折返し何分の御指圖なき向は御快諾被下候ものと拜察致候ま、此の點も何卒不惡御承引の程重ねて奉願候

敬具

昭和十年九月 日

五 高 同 窓 會

殿

記

一、本會ヲ第五高等學校開校五十年記念會ト稱シ、左ノ諸行事竝ニ諸事業ヲ行フ  
一、記念行事

イ、記念式（昭和十二年十月十日舉行）竝ニ勤績者表彰、物故者慰靈祭等

ロ、同窓會大會開催

ハ、記念講演會開催

ニ、其他

一、記念事業

イ、記念館ノ建設（同窓會員ノ會合宿泊使用。同窓會員ノ記念ニ關スル資料ノ蒐集保存。生徒ノ小集會。

同窓會事務所等ニ充ツ）

ロ、校史ノ編纂

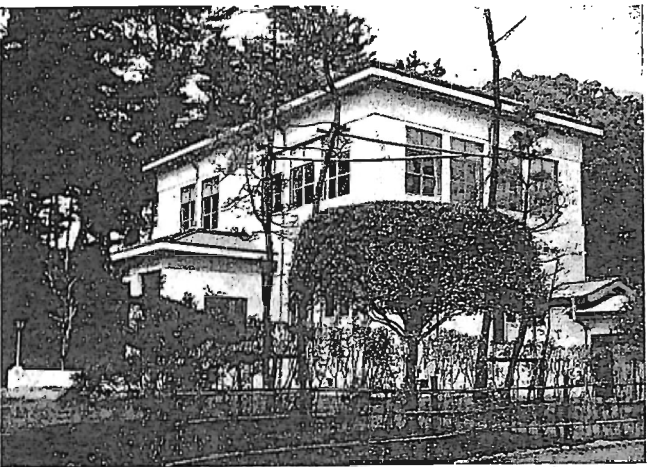
ハ、其他（贖金ノ額ニ應ジテ之ヲ行フノ成案アリ）

一、會員贖金ハ五圓以上（但シ學生ハ一圓以上）トス

趣意書

一、贖金ノ締切ハ昭和十一年三月卅一日トス  
一、會務ノ一切ハ追ツテ委嘱スベキ實行委員ニ之ヲ一任ス

趣 意 書



記 念 會 館

明治二十一年の創立以來、我が第五高等學校が偉大なる足跡を印しつゝ、年を逐うて隆昌に赴いてゐることは、洵に御同慶の至りに存じます。これ歴代校長の妥當なる經營と教官各位の熱心なる指導の賜物であることは申すまでもありませんが、又一面、光輝ある歴史と剛健なる傳統とが、絶えず後進に依つて繼承長成せられて來た爲であると信じます。茲に我が母校に於ては、五十年の歴史を偲び誇るべき傳統を助長せしむべく、來る昭和十二年十月十日の創立記念日をトして、盛大なる祝賀の式典を舉行されることになつて居ります。我が同窓會に於ても、此の際、特に第五高等學校開校五十年記念會を組織し、何等かの記念行事竝に事業を遂行して、各自龍南生活の往事を追懐すると共に、母校及び龍南會後援の一助にも資したいと思ひまして、昨年の本部總會に之を提案

して、満場一致の賛同を得、直ちに数名の企画委員を委嘱して、鋭意熟議の結果、大體左記の如き成案が出来ましたので、今夏當地在住の特別委員會に附議して承認を経、この程漸く實動の運びになつた次第であります。就いては公私御多端の御事は重々拜察致しますけれども、何卒發起人一同の微意のある所を御賢察下さいまして、奮つて御賛同御援助の程偏に御願申上げます。

昭和十年十月四日

第五高等學校第五十年記念會發起人一同

記念會館

記 (依頼狀と同文に付省略)

而して計畫中の行事に就いては、第二篇第二章第七節に述べたので、茲には重出せず、記念會館は、式典直前に竣功を見たのである。

卒業生地方別概要

東 京	福 岡	大 阪	兵 庫	熊 本	朝 鮮	滿 洲	臺 灣	京 都	長 崎	神 奈 川	愛 知	關 東
一五七一	六八二	三七七	二七九	二四二	二二五	一四〇	一三六	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇
廣 島	北 海 道	大 分	佐 賀	山 口	鹿 兒 島	愛 媛	宮 崎	支 那	千 葉	新 潟	高 知	
九二九	八七二	八四七	七四七	七五七	五七五	五〇五	四四八	四一七	四一七	四一七	三三〇	
岡 山	香 川	島 根	島 根	茨 城	和 歌 山	石 川	岩 手	滋 賀	長 野	秋 田		
三三三	二八八	二八八	二八八	二四五	二四四	二二四	二二四	二二四	二〇〇	一九〇		
福 島	奈 良	岐 阜	富 山	沖 繩	德 島	群 馬	鳥 取	山 梨	山 形	其 他		
一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	四		
八八八	七七八	六六六	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三五八		

卒業生地方別概要 (昭和十二年十月現在)